

小中学校プールのあり方等について（提言案）

1. 学校プールの更新・維持・廃止について

- ①防水シート、ろ過機の更新を含めた 20 年間の経費は 1 か所で約 5,000 万円です。費用対効果が低いプールについては、多額の修繕費用や設備等の更新費用が必要になった時に廃止し、校外プール施設を活用して水泳授業を行うことを検討してください。
- ②費用対効果については、民間施設を利用して水泳授業を行う際の費用と、学校プールを維持・更新していく費用（20 年間）を、児童生徒 1 人・1 回当たりで比較して、民間施設の費用が下回る場合は、費用対効果が低いと判断してください。

2. 自校プールを廃止して校外プール施設を活用する場合の留意事項について

- ①移動時間の影響を小さくするために、2 時限連続して授業を行うことになりますので、児童生徒の疲労や熱中症対策には十分気を付けてください。特に猛暑日が続く 7 月の水泳授業については、天候に左右されない屋内プール施設の活用を検討してください。
- ②他校のプールを活用する場合は、合同授業等を検討してください。
- ③校外プール施設の活用については、関係する児童生徒や保護者に事前に説明し、理解が得られるように努めてください。

3. 水泳授業、水泳指導の考え方

- ①インストラクターによる水泳指導は泳力の向上に効果的です。全ての水泳授業にインストラクターを派遣することは難しいと思いますが、回数を限定してでも、小学校 1 年生から中学校 1 年生までの全てのクラスの水泳授業にインストラクターを派遣してください。この取り組みは、教員の指導力向上にも寄与すると思います。
- ②スイミングスクールに通っている児童生徒と通っていない児童生徒では泳力に差があります。特に小学校ではその差が大きいことから、通っていない児童に合わせた指導をお願いします。
- ③防災教育の観点から、着衣泳等の命を守る水泳指導も行ってください。